

第2回駿河海岸保全検討委員会 議事要旨

日 時 平成28年6月28日(火) 15:00～17:00
場 所 CTI研究センターつくば 1階会議室
出席者 東京大学大学院 佐藤教授
名古屋大学大学院 水谷教授
静岡大学 原田准教授
国土技術政策総合研究所 諏訪海岸研究室長
静岡県交通基盤部 長縄河川砂防局長
中部地方整備局河川部 松浦河川調査官
中部地方整備局静岡河川事務所 犬飼事務所長

<議事>

○委員会規約について

- ・委員会規約の変更が承認された。

○粘り強い構造の堤防模型実験について

- ・実験の再現性について確認の上、結果を評価していく必要がある。
- ・裏法被覆ブロックの天端に近い箇所から堤防が被災している。この点について強化が必要な結果に見える。
- ・粘り強い構造の堤防等が破堤に至る時間等については、実験の再現性や不確実性等にも十分留意した上で、評価するかどうかも含めて検討する必要がある。被災機構をふまえた強化をする工法の検討も大切である。
- ・評価に際しては、背後の被害軽減効果等についても考慮する必要がある。例えば、陸側の水位を確認し、浸水深等を軽減する効果が時間的にどの程度違うのか評価することが考えられる。
- ・堤防に不陸が発生した場合等を想定した実験については、幅1mの現在の水路で一部堤防を切り欠いた形状での実験を行う。国総研より提示のあった論文等を参考に、実験条件を検討する。
- ・実験の再現性については、実験結果のばらつきを考慮する必要がある。

○洗掘シミュレーションについて

- ・法尻の洗掘が現状ではうまく再現されていない。この現象を再現するため、洗掘シミュレーション中の圧力分布等を再確認する。
- ・構築されたモデルを用いて、実験では確認できない実際の波形での掘れ方や植生の耐侵食性等を検討する。

○今後の予定について

- ・実験ケース及び評価方法について、事務局で再検討し、各委員に説明の上、今後の実験を進めていく。
- ・次回の検討会は、9月を予定する。